実施状況調査報告書（スポーツ振興くじ助成）

■活動概要

助成年度	令和 6 年度
助成団体	公益財団法人日本サッカー協会
事業細目名	スポーツ活動推進事業
事業名	2024 年度 S 級コーチ養成講習会
助成金額	9,816,000 円

令和 6 年度スポーツ団体スポーツ活動助成（スポーツ指導者の養成・活用（スポーツ））を活用し、公益社団法人日本サッカー協会が開催した「2024 年度 S 級コーチ養成講習会」の実施状況について調査を行いました。

本事業は、プロチームおよびプロ選手の指導ができる人材を養成するとともに、日本の指導者のリーダーとなる人材を育成することを目的としています。受講資格を満たし、トライアルに合格した指導者を対象に、令和 6 年 4 月から 11 月までの間、5 期にわたる集合講習（講義＋実技）を実施しました。日本サッカーにおける最上位の指導者資格である「JFA 公認 S 級コーチライセンス（※）」の認定を受けるためには本講習の受講が必須であり、全カリキュラムを修了後、筆記試験・指導実践・口頭試験・研修レポートの合格、日本サッカー協会技術委員会での審査を経て、その認定を受けることができます。なお、アジアサッカー連盟の「AFC Pro-License」も同時認定が可能です。

※令和 6 年 10 月より、名称が「JFA Pro ライセンス」へ改称されました。

■助成の意義

本助成は、講習内容の充実に寄与しているそうです。日本サッカーにおける指導者養成の最上位クラスである本事業は、国内トップレベルの監督や海外クラブでの指導経験があるチューターによる指導が不可欠となりますが、その招聘に要する滞在費や報酬などの費用を確保するため助成が必要とのことでした。また、チューターの人員増が可能となったことで、各受講者に対するより細やかな指導へも繋げることができたそうです。もし助成を受けられなかった場合は、講習内容の見直しによる支出の削減や受講者負担額、協会自己負担額の増額も検討せざるを得ないそうですが、助成の活用により、一層充実した講習を実現しているようでした。

■事業効果を高めるための取り組み

本講習は、カリキュラムを毎期見直し、ブラッシュアップを図っているそうです。協会が開催する指導者養成部会では、サッカー関係者に限らず、幅広い分野の有識者が集い、カリキュラムを検討しています。実際に、有識者からの意見をもとに座学の強化へ取り組んだとのことです。

また、カリキュラムの策定には、受講者に対して実施したアンケート調査の結果も反映されています。リアルベースドラーニングの推進はその一例で、従来は予め指定されたテーマに基づいて行っていた指導実践を、J リーグやヨーロッパクラブを用いたチーム分析や試合分析により自

ら課題や対策を抽出、指導を行うよう変更しました。さらに、アンケート調査にて「学びが多い」と評価が高かったＪリーグクラブ訪問も複数回実施しています。

■その他

令和６年 10 月より、「JFA 公認Ｓ級コーチライセンス」は「JFA Pro ライセンス」へと名称を変えました。同時に、より質を上げたトップレベルの指導者を育てるべく、方針も新たにし、現在転換期を迎えているそうです。ヨーロッパ諸国の事例を参考に、受講者の集合日を減らし、チューターが受講者のいる各現場に出向いて、実際行っている指導に対してフィードバックをする形式を取り入れる予定とのことです。また、座学は e ラーニングを取り入れ、専門的な科目に絞るなど、よりサッカーのテクニカルな内容に焦点を当てていきたいとのことでした。

■所感

近年、日本から海外へ羽ばたき、活躍する選手が増えていますが、選手だけでなく、指導者も世界で輝けるようにすることが今後のビジョンだそうです。本講習を経た先に、海外に挑戦できる環境があるよう、今後もカリキュラムの継続的な改良や海外指導者ライセンスとの互換性などに取り組んでいきたいとのことでした。

指導者に求められる姿が複雑化している上、サッカー界におけるスキルや戦術も日々進化していく中で、ビジョンを明確に掲げ、実現に向けた様々な工夫をされていることを実感しました。前例の踏襲だけではなく、新たな試みを積極的に取り入れている点が特に印象的でした。

本事業による優れた指導者の育成が、日本サッカーの更なる発展に繋がることを期待しています。

（令和７年 12 月４日往査）

（写真）講習会の様子（※写真提供：公益財団法人日本サッカー協会）



